発行月：令和2年10月　家族新聞　第646号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

2020/10/07 愛知県 なごや東版（瀬戸、尾張旭など）

◇尾張旭市50周年のコースター寄贈 尾張旭市の市民活動団体「地域環境活性化協議会」が5日、同市に、市制50周年を記念した木製コースター2240個を寄贈した。12月1日の市制施行日に開く式典で、市政功労者らに記念品として配る。

木材は昨年、県森林公園で開かれた全国植樹祭で利用されたひのきを使用し、裏面には50周年のロゴマークが刻印されている。

同協議会の髙橋賢一さんと浅見信夫さんが市役所に森和実市長を訪問。2人は「ぜひ市に貢献された方に見てもらい、使ってもらいたい」と話した。

市制50周年記念ロゴマークが刻印されたコースター＝尾張旭市役所で

(c)中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています

室町期の武将、太田道灌には古歌にまつわる知られた言い伝えがある。いくさの際に夜行く道を選ばなければならなくなった。今は引き潮だからと、海辺の道を主君に進言し、味方を無事移動させたとか。

〈遠くなり近く鳴海の浜千鳥鳴く音に潮の満干をぞ知る〉

鳥の声と潮のつながりを詠んだ古歌を知るがゆえの手柄と伝えられる。

古きを知ることで道を間違えることはないという説話のようでもある。古人の知恵がよりいっそう重く感じられる。コロナ流行下の世の中ではないだろうか。

英国の作家が十八世紀に書いた「ペスト」には感染症の流行下で主人公の商人が仕事か命を守るための行動かと、悩む場面がある。

第二波の恐ろしさも記されていてまるで今日の世界のために書いているように思える。

日本の古典では「徒然草」を開くと世の中は虚言ばかりだと書かれている。フェイクニュースが相次ぐ今、道をまちがえないような言葉のようにも読める。

鎌倉時代末期、兼好法師が著した日本文学屈指の古典。自然の移ろいに美を見いだし、死や老いが主題の随想を含むため「無常観の文学」という理解が主流だ。